

総合戦略の実施状況について

総合戦略の進捗状況

【総合目標、基本戦略の数値目標の状況】

○観光客数は、3年連続大幅増(32.3万人→39.2万人→51.3万人→53.4万人)

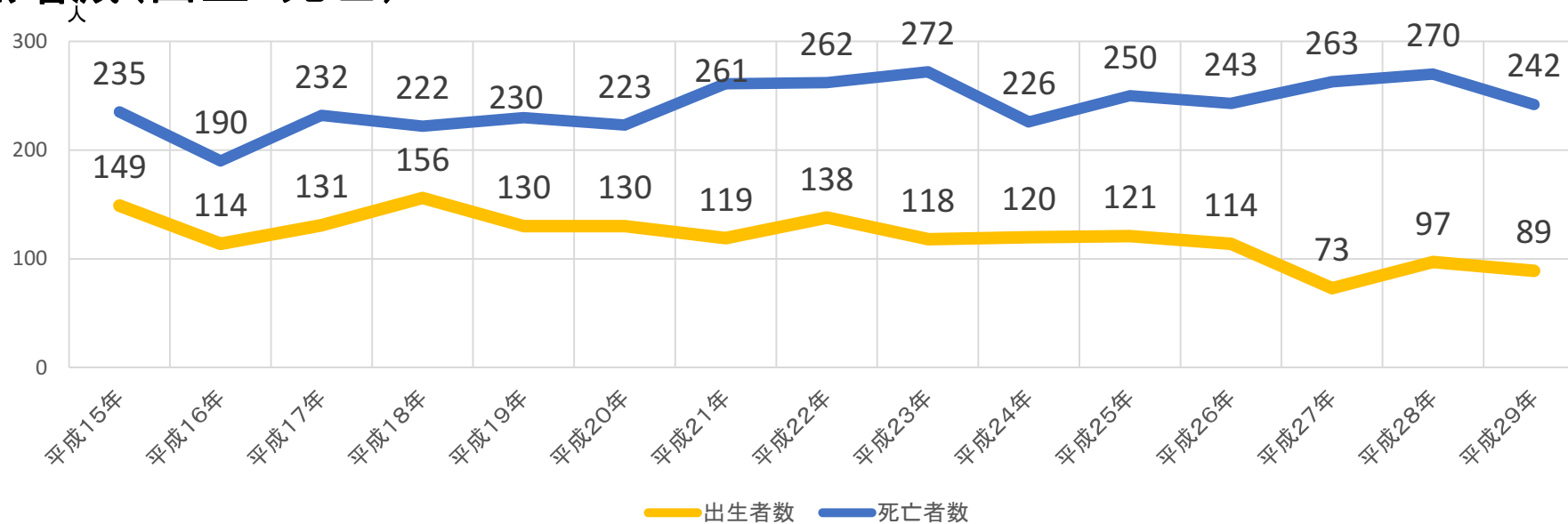
○出生数、社会減数は、出生数が減少に、転出者が増加に転じるなど厳しい水準が継続。

	目標値	実績値
総合目標	人口(平成32年):17,000人	16,985人(平成27年) (17,326人(平成30年5月1日)) ※住民基本台帳
基本戦略①働く場	①就業者数(平成32年):9,000人 就業率(平成32年):60% ②観光客数(平成31年):470,000人	①8,934人/60.0%(平成27年) ※9,598人/59.8%(平成22年) ② <u>534,014人(平成29年度)</u> ※513,050人(平成28年度)
基本戦略②子育て	年間出生数(平成31年):140人	<u>89人(平成29年)</u> ※97人(平成28年)
基本戦略③人の流れ	①年間転入者数(平成31年):450人 ②年間転出者数(平成31年):450人	① <u>339人(平成29年)</u> ※378人(平成28年) ② <u>475人(平成29年)</u> ※450人(平成28年)
基本目標④環境づくり	住み続けたいと思う方の割合 (平成31年):80%	—

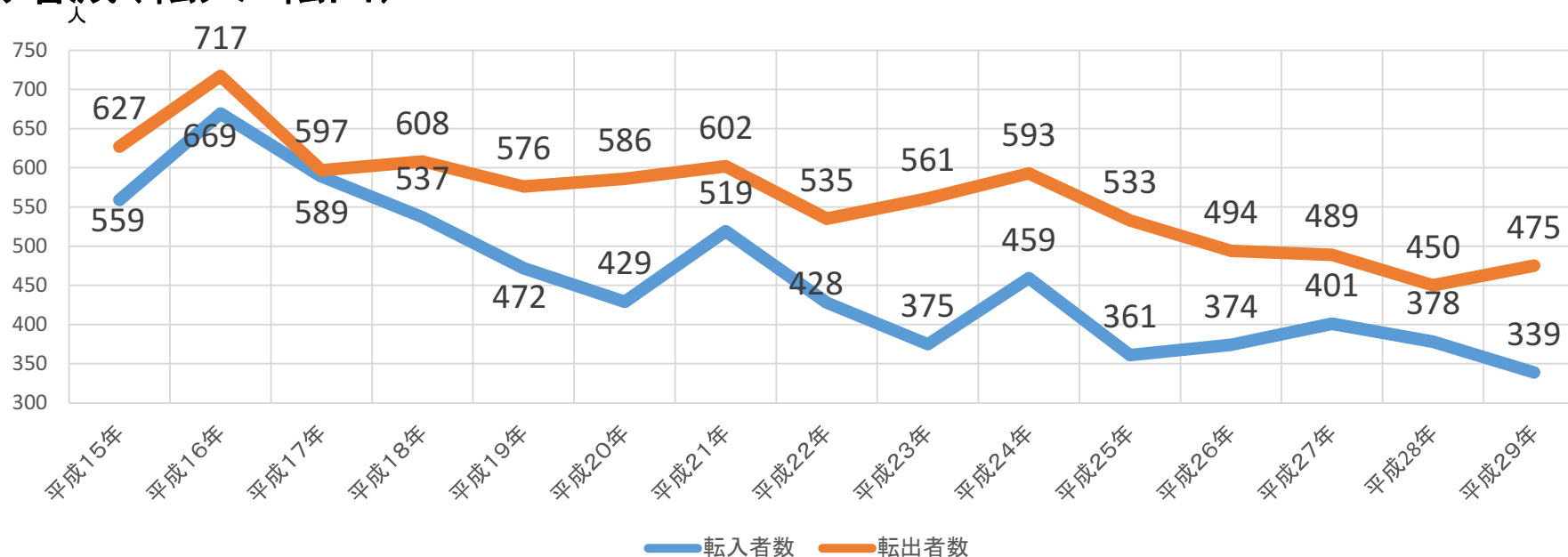
【人口動態の推移】

・自然増減、社会増減とも減少傾向が継続

自然増減(出生・死亡)



社会増減(転入・転出)



【八頭イノベーション・バレーの創設】

- ソフトバンクグループのSBヒューマンキャピタル(株)と契約締結。(27年度)
- 隼小学校跡を活用した「隼Lab.」の実現に向け検討(28年度)。→運営会社((株)シーセブンハヤブサ)設立(H29.4)
 - 2, 3Fをビジネスゾーン、1Fは飲食も含めたコミュニティゾーンとした「隼Lab.」を整備(H29.12)
 - ※オープニングイベントでは、約1,000人が来場、入居企業12社
 - ※施設整備及び事業推進支援に地方創生関係交付金を活用(拠点整備交付金、推進交付金)
- その他、自動運転に関する連携協定に基づく走行デモを実施予定



コンセプト

人が集い、遊び、学び、働き、楽しめる。
そして、暮らし、育てる場所。
八頭町のライフスタイルを提案するような場所へ



改修方針・イメージ

○ビジネス利用だけでなく、地域でも利用でき、多くの人が集う拠点に

- ・ビジネス利用者と地域住民が共に活用できるコミュニティスペース【1階】
(まちづくり委員会等で利用可能な多目的集会スペース、飲食、物販など)
- ・ビジネス空間としては、ITインフラの整備及びコワーキングスペースなどのシェア(共有)空間を多用し、常時50人の従業員が活動する施設【2階・3階】

1F

地域と入居者をつなぐオープンエリア

カフェやイベントスペースといったパブリックスペースにし、
地域と移住者、入居者とのコミュニケーションを促進し新たな価値をつくる。

地域

企業



2/3F

企業スペースとコワーキングスペースによるビジネスエリア



隼Lab.運営会社 (株)シーセブンハヤブサ概要

会社名	株式会社シーセブンハヤブサ ※事業内容が隼Lab.の運営のみに止まらないことから、会社スローガンである、「挑む、活かす、生み出す、続ける」に加え「熱狂」、「変化」、「共同体」という言葉の英語訳「Challenge」「Culture」、「Create」、「Continue」、「Crazy」、「Change」、「Community」の頭文字を取って命名
設立	平成29年4月3日
資本金	1,500万円
参画株主	出資者(株主)
	(株)アクシス
	SBヒューマンキャピタル(株)
	(株)Aoi Pro.
	(株)トリクミ
	ネクストシフト(株)
	(株)鳥取銀行
	とりぎんリース(株) ※鳥銀グループ
代表者	古田琢也 ((株)トリクミ代表取締役)
ミッション	地域の価値を最大化し、新たな産業や人材を生み出し 日本の未来のモデルになる田舎をつくる。
スローガン	挑む、活かす、生み出す、続ける。
事業内容	挑む : 地域活性化事業(隼Lab.運営等) 活かす : 地域資源価値創造事業(ふるさと納税等地域物産販売支援等) 生み出す: 起業家・人材支援事業(インキュベーション施設運営、起業家支援等) →こうした取組により、事業を発展的に「続ける」

【因幡但馬海幸・山幸回廊の創設関係】

- ・若桜鉄道について、車両改修に合わせた車両の観光列車化を推進
→観光列車「昭和」が3月4日運行開始
- ・Gバス原風景コース開始、読売バスツアーの実施、首都圏・関西圏プロモーション活動。その他Wi-Fiの増設、観光ガイドアプリ等を開発
- ・八頭町PR動画(28年度「これからの日本のことやっています 八頭町。」、29年度「出る杭を伸ばす 八頭町。」)、八頭町発フェス「Torihada」開催(来場者約1,000人)

※事業推進支援に地方創生推進交付金を活用





H29. 11.26 八頭町情報発信事業
「Torihada」音楽フェス

八頭・若桜谷の夢を乗せて

若桜鉄道観光列車「昭和」 出発進行！



若桜鉄道観光列車「昭和」が運行を開始しました。
鮮やかな青を基調とした車両が八頭・若桜谷の田園風景の中を走り抜け、
3月4日のデビューツアーに参加した約80人が「昭和」の旅を満喫しました。
これからも八頭・若桜谷の夢を乗せて走り続けます。

【八頭フルーツ街道の継承・八頭ブランドの確立関係】

- 平成29年産の鳥取県特別栽培米の認証を受けた八頭米を「神兔」としてブランド化し、セールスプロモーションを開始。親元就農促進支援事業を活用して、平成29年度より果樹の後継者2名を育成中。また、新規就農希望者1名が、平成29年度に果樹の先進農家で技能研修を受けた後、営農を開始。
- 花御所柿のGI登録及び商標登録に向けて手続き中



【安心子育て・いきいき学習のまち八頭の創設関係】



- 平成28年度から、第2子以降の保育料無償化を実施。平成29年度には、子育て世代包括支援センターの開設による切れ目のない子育て支援、病児保育、入学祝い金の創設、在宅育児世帯への現金給付、ヘルパー派遣の拡充等を実施。
- 学校教育のICT化に向け、平成28年度からの2年間で小中学校全学級に大型液晶ディスプレイとタブレット型PCをセットで整備。その後、児童生徒用のタブレット型PCの整備を推進予定。
- 小学校における必修化が検討されているプログラミング教育を、平成28年度に全国に先駆けて旧隼小学校で実施。平成30年度からは、町内全小学校で実施し、「プログラミング的思考」の育成を推進。

総合戦略の進捗状況(その他事項関係)

【全体の達成状況】

○KPI達成事業の割合は、50.9%(29/57:H28年度)

→ **62.5%**(35/56:H29年度) に上昇

○隼Lab.の整備・オープンや企業誘致、交流イベント、宅地造成、圏域外転入などで新たに目標を達成したことから、堅調に推移。

一方で、目標を達成している事業は固定化の傾向であり、今年度の事業実施を踏まえ、来年度は次期に向けて計画の整理が必要。

